

論文要旨

所属ゼミ	高木 晴夫 研究会	学籍番号	89928517	氏名	鈴木 素
(論文題名)					
ドラマツルギー					
組織マネジメントのための作劇法					
(内容の要旨)					
<p>本論文の目的は、演劇の世界に倣い、シナリオを作り、キャスティングを考え、アドリブや即興を活かしながら劇を組み立てていくようにして組織を動かす一つの形を提示することにある。</p>					
<p>本論文は、個人の振る舞いの多くは演技的な要素を含んでいるという枠組のもとに、その演技に作用することによって組織活動を変えていくことを目論む。演劇の世界で長年にわたって構築されたある種のテクニックは、仕事上の演技にも転用することができる。その際には、役を演じることによって生じる葛藤の解決が重要なポイントとなり、これを解決することによって人々は伸び伸びと演技をすることができるようになる。</p>					
<p>コンピテンシーの議論においても、上手に演技指導、演出することで、人は固定化した役割・役柄から脱皮し新たな行動特性を身に付けていくことができる。仕事上のポジションが変わるたびに必要とされるコンピテンシーも変わるため、要求された演技にフレキシブルに対応していける演技力が仕事の中で重要になってくる。</p>					
<p>良い演技を引き出すためには舞台としての職場の雰囲気についても工夫していく必要がある。そして、舞台に魂を入れるプロセスとしての監督、演出を行うためにマネジャーは重要な役割を果たすようになる。</p>					
<p>従業員がそれぞれ演じる役は「機能」、「役割」、「役柄」に分割することができる。舞台にて劇を構成する多様な個から成るチームは、機能や役割ばかりに注目せず、作り上げたいストーリーを睨みながら、その役柄のコンビネーションまで考えてメンバーを組み合わせていくべきである。</p>					
<p>そして、シナリオを作るのはマネジャーの役割であり、良いシナリオからでなければ良いストーリーは作り出すことができない。会社は社員が演技をしていくための舞台であり、ストーリーを生み出していくためのプラットフォームである。このストーリーの生成と発展、更には代替ストーリーとの置換えを主導していくのがマネジャーの責務である。</p>					